



# (株) 極東書店

■新刊書速報

KF-2237/June 2023

好評発売中!!

和漢洋150点の稀観書と立正大学図書館史を収録

## 『立正大学図書館 古今善本録』

—蔵書が伝える図書館 150年の軌跡—

発行：立正大学図書館 編集：立正大学品川図書館 発行日：2023年6月30日  
装丁：A4判カラー ページ数：249p ISBN：978-4-907075-09-5 定価：16,500円(税込)



### 目次

ごあいさつ (立正大学図書館長 小浜 ふみ子)  
発刊によせて (立正大学長 寺尾 英智)  
凡例

- 第1部 善本150選  
第1章 日蓮と日蓮宗  
第2章 古刊本・古活字版  
第3章 物語と和歌  
第4章 異国関連資料  
第5章 絵図と双六  
第6章 書写資料・自筆本  
第7章 西洋古版本

参考文献一覧  
掲載資料一覧

- 第2部 立正大学図書館の歴史  
第1章 図書館のあゆみ  
第2章 蔵書の分類とその変遷  
第3章 蔵書の来歴と文庫  
掲載図所在一覧  
歴代図書館長・分館長(副館長)一覧

索引  
執筆者・協力者一覧  
あとがき  
編集後記

## 販売総代理店 極東書店

お求めは弊社または、立正大学内 紀伊國屋書店にて承っております。

Amazonからもお申込みいただけます



FAR EASTERN BOOKSELLERS  
KYOKUTO SHOTEN LTD  
Kanda, Tokyo 101-8672, JAPAN

〒101-8672 東京都千代田区神田三崎町 2-7-10 帝都三崎町ビル  
〒604-8357 京都市下京区柿本町 579 五条堀川ビル 6F  
〒810-0073 福岡市中央区舞鶴 1-3-14 小榎ビル

TEL 03(3265)7531 FAX (3556)3761  
TEL 075(353)2093 FAX (353)2096  
TEL 092(751)6956 FAX (741)0821

URL: <http://www.kyokuto-bk.co.jp>

E-mail: [info@kyokuto-bk.co.jp](mailto:info@kyokuto-bk.co.jp)

## 発刊にあたり

立正大学は、明治5年(1872)芝二本榎(現在の東京都港区高輪)の承教寺に日蓮宗小教院が設置されたことをもって開校の起点とします。その後、大檀林、日蓮宗大学等の変遷を経て、大正13年(1924)に旧制の立正大学となります。旧制大学時代は文学部のみの単科大学でしたが、現在は9学部、大学院7研究科を擁する総合大学となり、令和4年(2022)には開校150周年を迎えました。

大学の図書館は、その大学の個性を反映する鏡です。本学図書館の蔵書を紹介するものとして、今までも『立正大学蔵 日蓮宗関係蔵書目録』『立正大学蔵 溝之口宗隆寺島田文庫目録』『田中啓爾文庫目録』『立正大学図書館蔵明版仏典解題目録』『立正大学図書館所蔵明代南蔵目録』『河口慧海旧蔵資料解題目録』などが刊行されていますが、これらは特定分野や特殊文庫などに絞られたものでした。そこで開校以来の歴史の中で培われ、教育・研究の基礎を支えてきた本学の書物たち全体から、選りすぐりを紹介することになりました。収載された書物は、九牛の一毛にすぎません。高麗版一切経など著名なものでも、限られた紙数であるため未収録となったものが数多くあります。しかしながら、本学図書館の特色がよく窺えるものとなっています。また、開館以来の歴史、蔵書の来歴についてもまとめられました。

本書の刊行が契機となり、本学図書館の特徴が周知されると共に、より一層の活用が図られることを念じています。

立正大学長 寺尾 英智

## 推薦文

大学図書館の蔵書は、その大学の成り立ちや歴史を色濃く反映する。立正大学は、天正8年(1580)に設立された日蓮宗の教育機関「飯高檀林」を起源とする。その長い歩みを裏付けるように、立正大学図書館も数多くの貴重書・古典籍を所蔵する。

蔵書の核となるのは、日蓮宗の信仰を支えた仏書、すなわち第1章で紹介される日蓮聖人の遺文や日蓮宗に関わる經典である。また、貴重な古刊本が多いことも蔵書の特長の一つだ。そもそも、日本で貨幣経済が発達して商業出版が行われるようになるのは江戸時代以降。それ以前の出版とは、寺院における仏典の刊行だった。仏陀の教えを広めるために、写経と同様、經典の出版が重要視されたのである。第2章には、宋版・元版・明版・春日版・五山版・古活字版等々、書誌学的に重要な古刊本が惜しげもなく並べられている。印刷・出版と宗教との結びつきがそれだけ強かったことを具体的に示していて興味深い。

ただし、立正大学図書館がこうした蔵書に富むことは、ある意味で必然であるといえる。しかしながら、第3章以下で紹介される蔵書、とくに第4章と第7章の資料群は、仏教系の大学としての立正大学のイメージを、良い意味で大いに裏切るものであろう。これらの蔵書からは、明治期に西洋の学問体系を受け入れて以来、総合大学として発展を続ける立正大学の社会に対する眼差しを読み取ることができる。つまり、大学図書館での蒐書というものが、それぞれの大学が信奉する価値観を体現させる作業であるならば、立正大学図書館ではそれが現在でもしっかり行われており、第7章の最後を飾る「ゲーテンベルク42行聖書 零葉」の収蔵が、それを象徴的に示すのである。

以上の言が誇大でないことは、本書の最後に収録された「立正大学図書館の歴史」を読めば、よく了解されよう。さまざまな大学図書館から善本図録の類は数多く刊行されているが、これほど詳細な自らの歴史を掲載した図録はまずない。先人たちの活動の上に、あらたな歴史を刻んでいこうとする、現在の図書館スタッフの方々の熱意が力強く伝わってくる。細部に至るまで行き届いた意匠を凝らしたデザインも素晴らしい。まさに、開学150年を誇る立正大学の歴史を凝縮した一冊である。

立正大学文学部教授 伊藤 善隆